

第4回講座

想定外が起きる覚悟を

声を出す勇氣を持って

宮城・南三陸 元戸倉小校長

麻生川さん

南三陸町生涯学習課長

三浦さん

東日本大震災の伝承と防災の担い手育成を目的に河北新報社などが開く通年講座「311『伝える／備える』次世代塾」第2期の第4回講座が21日、「避難の明暗」をテーマに仙台市宮城野区の東北福祉大仙台駅東口キャンパスであった。宮城県南三陸町の元戸倉小校長の麻生川敦さん(61)と同町生涯学習課長の三浦勝美さん(56)の2人が講師を務め、津波襲来時の緊迫した状況を証言した。

311 次世代塾

伝える／備える

第2期

麻生川さんは冒頭、戸倉小が震災前から取り組んでいた避難マニュアル作りを紹介。海から約300メートルの同小は避難先として3階建ての校舎屋上か、小学校近

くの高台避難かで議論を重ねたが、どちらかの結論は出ていなかったという。

麻生川さんは「最終判断は校長に委ねられていた。東日本大震災では津波到達

まで時間があり、高台を選択した。結果として学校を襲った津波は約26メートル。屋上に避難していたら戸倉小は全滅だった」と語った。

麻生川さんは「津波が速ければ高台避難が間に合わない恐れもあった」とも強調。「マニュアルで、全ての事態は想定できない。想定外が起きる覚悟を持つべきだ。臨機応変な対応も求められる」と力説した。

町職員の三浦さんは、役場で勤務中に揺れに襲われた。当時、逃げるという意識はなく津波襲来の情報を聞き、同僚とともに向かった防災対策庁舎で津波にのまれた。必死で津波にあらがって九死に一生を得た。

三浦さんは「津波が来る前、窓から公立津川病院が見えた。1人で逃げれば間に合うとも思ったが、同僚をおいて逃げられなかつ



南三陸町の防災対策庁舎屋上で職員が撮影した津波襲来の瞬間。2011年3月11日午後3時34分(同町ホームページから)



津波で無残に大破した南三陸町の防災対策庁舎。2011年4月

受講生の声



とにかく逃げる

避難はベストを考えるよりベターな方法で早く逃げるのが重要で、時にはマニュアルを捨てる勇氣も必要だ

臨機応変に動く

マニュアルも大切ですが、臨機応変に動く覚悟が必要だと知りました。震災時は何かあったら小学校へ

つながりが大切

災害について日ごろから話し合うことが、状況に応じた判断や行動につながる

心理にとらわれず、声を出されるようにしたい。マニュアルを含め事前の想定も必要だが、その場その場で対応する大切さも学んだ」といった意見が出た。

次世代塾推進協議会 宮城・南三陸 元戸倉小校長 麻生川さん
南三陸町生涯学習課長 三浦さん
「311次世代塾」次世代塾推進協議会 宮城・南三陸 元戸倉小校長 麻生川さん
南三陸町生涯学習課長 三浦さん
仙台市宮城野区 東北福祉大 仙台駅東口キャンパス

要だと分かりました。保育士を目指しているので、子どもに「逃げる」という大切さを教えたい。(東松島市・仙台白百合女子大3年・佐藤朱郁さん・21歳)

と親に教わっていたので迷わず避難できました。将来は行政関係の仕事に就き、学びと体験を生かしたい。(仙台市泉区・東北福祉大2年・大谷拓丸さん・19歳)

マニュアルを地域で考え備えることも必要。人のつながりの大切さを改めて感じました。(仙台市宮城野区・東北福祉看護学校職員・鈴木みなみさん・32歳)